



身近な自然について思うこと

校長 中村 篤

2月6日、今回は岩槻消防署の職員の方にもご協力いただき、地震と火災の発生を想定した避難訓練を実施しました。地震発生放送が流れると、子どもたちは一斉に机の下に入り、2分後の火災発生放送が流れると、防災頭巾をかぶって校庭に避難を始めました。皆とても落ち着いた態度で、素早く行動することができました。

避難訓練終了後、3年生は煙体験、6年生は代表の児童が水の入った訓練用の消火器を使い、消火器の使い方と消火の仕方について体験しました。

3年生の煙体験では、署員の方から①鼻と口を押える、②低い姿勢をとる、③右手で壁を触りながら移動するという説明を受けた後、煙が充満して先が見にくいテントの中を説明どおりに進み、全員が無事に体験することができました。まとめの話の中で署員の方が「煙は甘いにおいがしたでしょう？においを感じた人！」と子どもたちに質問すると、約半数の子どもたちが元気よく手を挙げました。署員の方は「においを感じた人は、煙を吸ってしまったということ。本当だったら危なかったんだよ」と煙の危険性や避難の仕方について改めてお話をしてくださいました。うれしそうに手を挙げていた子どもたちがしっかりと理解してくれていればよいのですが…。

さて、先日の朝、正門であいさつをしていると、スズメが数羽飛んできました。えさをついばむその愛くるしい姿を見てとても懐かしい気持ちになりました。スズメなんて珍しくないと言われそうですが、ここ数年自宅周辺ではほとんど姿を見かけなくなりました。スズメがいなくなった原因の一つとして、近年の都市化による環境の変化で巣を作れる場所が少なくなったことが挙げられます。ここ城北小学校の周りも例外ではなく、近いうちにスズメの姿を見られなくなる日が来るかもしれません。

また、先日行われた岩槻区退職校長会の研究協議会において、さいたま市に生息するクモの生態についての発表を聞く機会がありました。発表者の方がさいたま市内で調査・採取したクモは200種類を優に超えるもので、一口にクモと言ってもこんなにもいろいろな種類やおもしろい生態があるのかと、とても驚かされました。クモや昆虫に興味のある方は、さいたま市が刊行している「さいたま市史自然編（昆虫類）」に詳しくまとめられているので、ぜひ市内の図書館にてご覧ください。

クモといえば、我が家にもよく出るクモがいます。よく部屋の壁を歩き回っている小さなクモです。ハエトリグモの仲間、家の中をパトロールしては、害虫を捕えてくれる頼もしいヤツです。ヤツが出ると、家族は悲鳴を上げます。私は「益虫だから大丈夫。このまま放置したほうが害虫がいなくなるから」と説得するのですが、当然聞き入れられません。この可愛さを何とかわかってもらえるように、砂糖水を含ませた綿棒にヤツを止まらせて（巷では「接待」というそうです）砂糖水を飲んでいる姿を見せるなど努力を重ねた結果、少しずつ受け入れてくれるようになりました。

本校には「じょうほくの森」という防災林があります。平成22年と平成27年に植えられた苗木も今ではとても大きく生長しました。防災林としての役割だけでなく、子どもたちが美しい自然に触れることができ、たくさんの生物が集まる「環境保全林」としての役割も担っています。「カナヘビを捕まえたよ」「こんなに大きな霜柱を見つけたよ」とキラキラした目で教えてくれる本校の子どもたち。「じょうほくの森」などを活用しながら、そんな輝く目を持った自然を愛する子どもを一人でも多く育てていきたいと思えます。